

川
柳

【小学1年生・2年生】

特 選 あきのひにいったべたえびふらい

旭森小学校1年 渡 邊 司

(評) 秋とエビフライの組み合わせがおもしろく新鮮に思えました。食欲の秋といえは秋に収穫できるものと思っていたのですが、きつとエビフライがいちばんの好物なのでしょう。自分の思いが素直にあらわれています。十七音で思いを伝えるのは難しいのですが、とても作者の気持ちが伝わります。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 おいしいなおもちもちおいしいな

旭森小学校1年 木下 暖斗

(評) 読んでいてリズムに乗れる句になっているのがとてもよかったです。十七音の少ない文字では同じ言葉を使わないようにするのですが、「おいしいな」「もちもち」と二か所も使っています。そしておもちのおいしさがリズムに乗ってしまっています。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 なんだあれうちゅうじんだこんにちは

旭森小学校1年 玉置 柊璃

(評) 夢のような楽しい句ができました。「なんだあれ」がとても効いています。夜空を見たときにできた句ですか？寝ていて夢で見たときの句ですか？宇宙人とであつたらつづきの句を書いてそれから教えてください。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 お母さん少し待ってがながすぎる

稲枝東小学校2年 長田 湊大

(評) この句はとてもおもしろい。思わず吹き出しました。作者はイライラしながらお母さんを待っている。気にしないでお母さんは用事をすませる。日常の作者とお母さんの会話まで目に浮かぶようです。怒っているても大好きなお母さん：

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 やきいもをはんぶんこしてあったかい

旭森小学校1年 川村 智喜

(評) やきいものホツカホツカと温かくおいしいのを半分にして、ニコニコして食べる風景が読み取れます。「はんぶんこ」したあいてはだれでしょうか？お友だち？弟か妹？それともおばあちゃんですか？あたたかくていいですね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 かごもってドアをとんとんあめもらう

旭森小学校2年 山中 一華

(評) ハロウィーンの句ですか？仮装はしましたか？魔法使いの仮装で「ドアをとんとん」ドアを開けたひとは驚いたでしょうね。たくさんのおめ、よかつたですね。とても楽しい句になりました。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 秋の夜森から聞こえる何の虫

旭森小学校2年 佐野 咲空

(評) 下五の「何の虫」のインパクトが全体をもちあげています。真つ暗な森の中から聞こえるきれいな虫の声に耳をかたむけじつと聞きいつています。秋の静かなひとときの風景です。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 りんごすきみつはしさとむ六さいです

城北小学校1年 三橋 知歩

(評) 自己紹介を川柳でするとは思ってもみませんでした。最初に「りんごすき」、そして名前、最後に年齢、完璧です。恐れ入りました。作者のことがよくわかりました。私もお友だちにしてくださいね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 ハードルでうさぎのようにとびこえた

平田小学校2年 河合 奏空

(評) 「うさぎのようにとびこえた」きつと一番だっただけでしょう。そしてうさぎのように飛び跳ねて喜んだのでしょうか。ハードルののぼす「一」も一音に数えます。これからの楽しい日常を句にして、たくさん川柳を作ってください。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

佳作 あき見つけのやまにとんでるあかとんぼ

旭森小学校1年 兵頭 陽織

佳作 あかとんぼたのしくおどるうれしそう

旭森小学校1年 深尾 茉祐

佳作 みのむしさんみんなちやいろいろふくきてる

旭森小学校1年 相原 圭吾

佳作 うみづりとジャングルジムがとくいわざ

旭森小学校1年 疋田 聖樹

佳作 どんぐりをさかみちレースにころがせる

旭森小学校2年 山川 碧依

佳作 ばらばらとおちばがおちるすてきだな

旭森小学校2年 西川 莉瑚

佳作 リンリンときれいながっしょうピアノの音^ね

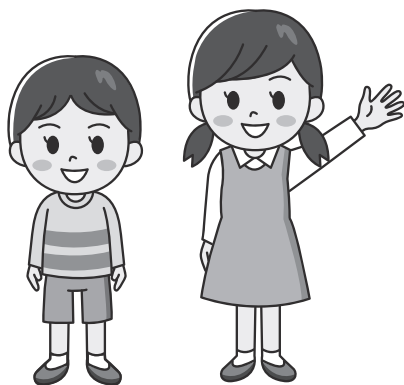
旭森小学校2年 石崎 裕梧

佳作 けしごむをつくったひとはてんさいだ

平田小学校2年 東野 泰成

佳作 おとうとはいつもわたしにうるさすぎ

平田小学校2年 古川 倖愛



入 選 はるのひにはなをたくさんみつけたよ

旭森小学校1年 白 瀧 惺

入 選 ゆめのなかくだものがりでたべほうだい

旭森小学校1年 大井 結衣子

入 選 いちごのねあまいところがだいすきだ

旭森小学校1年 屋根下 怜奈

入 選 みんなでねテレビを見ておおはしゃぎ

旭森小学校2年 岩戸 柚樹

入 選 すいようびあめがぽつぽつふりました

旭森小学校2年 谷澤 悠陽

入 選 秋の夕日きれいなすすきサラサラと

旭森小学校2年 田中 瑠夏

入 選 もみじちらちらふわふわおちてきた

旭森小学校2年 大菅 百華

入 選 とげいたいちくちくしてるあきのくり

旭森小学校2年 藤本 直輝

入 選 しょうらいけーきやさんになれますように

金城小学校2年 田宅 優心

入 選 きみたちのえがおがいいなたのしいな

平田小学校1年 丸山 彩千花

入 選 ばばとぷーるたのしかったよなつやすみ

平田小学校1年 福永 和音

入 選 あきのほしカシオペアざがきれいだな

平田小学校2年 吉岡 大

入 選 あおいそらすごいあおいよすずしいな

平田小学校1年 西村 空真



【小学3年生・4年生】

特 選 妹よいかりくるうのやめてくれ

稲枝東小学校4年 大西 詩楽

（評）妹のおおごえでわめきたてているようすがよくわかります。そして、もうやめてくれと思う姉ちゃんのこまった顔もよくわかります。姉妹の仲の良さがよくわかります。

（彦根文芸協会 重森 恒雄）

特 選 風が吹く涼しい風も吹いている

城西小学校3年 本田 紘生

（評）真夏日の続く、暑くてじっとりした毎日だけど、ときどき、涼しくここちよい風も吹いてくれる。木かげの風か、川べの風か。大きく息を吸いこんで、たまにはいいこともあるもんだ。

（彦根文芸協会 重森 恒雄）

準特選 いもうとがはじめてよんだよわたしのなまえ

城北小学校3年 田部 詩織

（評）お姉ちゃんじゃなくて、なまえでよんでくれたんだ。なにかとてもうれしい。いままでいじょうに、仲の良い姉妹に、かけがえのない家族になれた気がする。

（彦根文芸協会 重森 恒雄）

準特選 よるごはんつくったひとにかんしゃして

城北小学校3年 向江村 昇大

（評）農家のひと、魚をとったひと、牛、ブタをそだてたひと。店まで運んでくれたひと。夕食を作ってくれたひと。ありがとうございます、いただきます。あしたがんばります。

（彦根文芸協会 重森 恒雄）

佳作 頑張るぞ楽器のおとをあわせよう

城西小学校3年 近藤 蓮夏

佳作 またあったここにも小さな落とし穴

金城小学校3年 遠藤 妃栞

佳作 暑い日に家族とたべるチョコアイス

城北小学校4年 吉田 雪菜

佳作 パーンでおたん生日おめでとう

城北小学校3年 尾脇 歌恋

入選 かくれんぼ頭が見えててつかまった

城北小学校4年 中島 知音

入選 空と雲すごくきれいな青と白

城東小学校4年 大照 瞬太郎

入選 図工のしめきりあと3日危険

城西小学校4年 榎本 詩穂

入選 彦根城井伊直弼が住んでいた

城西小学校4年 辻 快都

入選 およいだよ大きいびわことおくまで

鳥居本小学校3年 飯田 絢心

入選 うんどうかいバトンパスがむずかしい

城北小学校4年 端野 楓華

入 選 つりに行く魚が八ぴきつれました

鳥居本小学校3年 武田 志龍



【小学5年生・6年生】

特 選 本読むとその世界まで旅に出る

若葉小学校5年 澤 来愛

(評) ワクワクしながら本を読むあなたが見えます。本は知識がいつぱいつまっています、色々な所に連れていってくれます。その世界まで旅に出るなんて、夢のあるステキな句になりました。これから本をたくさん読んで知らない所へ旅をしてください。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

特 選 おばあちゃん友達多いどこまでも

城東小学校6年 宮川 莉緒

(評) おばあちゃんに友だちがいつぱいいるっていいですね。「どこまでも」で、元気に飛び回る明るいおばあちゃんの笑い声が聞こえてきました。こんな句を作ってくれたことがうれしくて、おばあちゃんから旅のおみやげがあるかもしれませんね。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

特 選 もみじの葉風の車でお出かけだ

金城小学校6年 岡野 歩空

(評) 秋の枯れ葉が舞うようすはよく読まれる句ですが、もみじの葉が「風の車でお出かけだ」はすばらしい発想と思います。風の車は、早く遠くまで旅ができ、夢があります。もみじにお元気でと声を掛けたくまりました。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

特 選 やりなさい今取りかかるつもりです

城東小学校6年 久保田 悠月

(評) さらに流れる言葉で書かれている「やりなさい」。いつも言われているのかな。今取りかかるうと思っている時に限ってなのですね。その気持ちがよく分かる良い句になりました。あなたのことを思っ言ってくれる「やりなさい」。喜んですぐとりかかりましょう。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

準特選 マーチング指揮者になってふえをふく

旭森小学校6年 小池 波央

(評) 音楽に合わせて行進するマーチングの指揮者になったあなた。「ふえをふく」という動作を入れたことにより、先頭に立ち背すじを伸ばしたあなたと、みんなが一つになったきれいな音楽が聞こえてきました。良い思い出の一句になりました。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

準特選 秋の朝これで五回目あと五分

金城小学校6年 高橋 峻介

(評) 今年の夏は猛暑でなかなか眠れませんでした。秋の朝になり涼しくヒヤッとした床の中、床から起きられないことを何も言っていないのに、「あと五分」でよく分かります。これで五回目がおもしろいです。誰にでも覚えがあるのでは。気持ちが分かりクスクスツとなりました。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

準特選 国語理科社会算数大変だ

平田小学校6年 匿名 名

(評) たくさんの教科がある中で上手に「国語理科」で五文字、「社会算数」で七文字でまとめ、「大変だ」の下五で気持ちがよく表されています。社会に出たらどれほど生活に役立つ勉強です。この句を作るあなたは頑張れますよ。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

準特選 洗濯機ティッシュ一枚母鬼に

城東小学校6年 佐々木 晴守

(評) これは私も経験があることで、ポケットにティッシュを入れたまま洗濯機で洗った後、洗濯物を見たしゅん間、まさにその気持ちです。「母鬼に」の言葉でよく表されていると感心しました。次回から洗ってくださるお母さんに感謝して、ポケットの中を調べてから出しましょう。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

準特選 春の木は桜満開桜ふる

若葉小学校5年 阿部 真怜

(評) 春の木は色々な木があるはずなのに、この句のようにやっぱり桜ですね。桜があちこち満開でウキウキした思いの中、「桜ふる」の情景を入れたことにより、はなやかな春の景色が浮かんでくる良い句です。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

準特選 あいさつで気持ちかわるまほうかな

旭森小学校6年 廣田 愛空

(評) あいさつはしてもされても気持ちがいいものです。友だちとけんかしてちょっと気まずいとき、あいさつされただけで仲なおりできることがあります。気持ちがかわるところがよかったです。「まほうかな」でうまくまとめています。まほうのあいさつで楽しい毎日をすごしてください。

(彦根文芸協会 島田 洋子)

佳作 次は勝つ涙をふいて練習だ

稲枝東小学校5年 田邊 心暖

佳作 ヘルメットかぶれば事故は減らせるよ

稲枝東小学校5年 松岡 侑李

佳作 面打たれ負けて悔やむもしない持つ

城東小学校5年 服部 匡紀

佳作 夏休みバタバタとなる長いのに

城南小学校5年 高橋 あらた

佳作 ありがとう素直な気持ち伝えたよ

平田小学校5年 上林 桜子

佳作 愛犬の物取る早さ忍者並み

佐和山小学校6年 大前 さくら

佳作 好きなこと時間がたつのあつという間

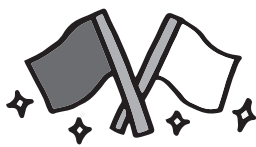
城西小学校5年 北村 陸翔

佳作 動物と触れ合う人は優しいな

城西小学校5年 馬場 美月

佳作 スポーツの秋は力が湧いてくる

城北小学校5年 玉置 志恩



入 選 桜咲き幸せ溢れ餅食べる

城西小学校5年 北村 夏実

入 選 帰り道夕焼けの空僕の空

佐和山小学校5年 今井 翔太

入 選 ザクザクと落ち葉が歌う音楽だ

平田小学校5年 木田 智菜

入 選 きれいだなホタルがひかりほしのよう

城北小学校5年 堀部 陽真

入 選 誕生日ケーキの前に宿題だ

若葉小学校5年 野洲 希海

入 選 朝起きてあさがおさんにごあいさつ

城北小学校5年 眞方 花音

入 選 くりひろいとげとげのくりいててて

旭森小学校6年 北村 華音

入 選 コンクール緊張感が心地良い

城東小学校5年 中田 知里

入 選 雨上がり青空うつるみずたまり

旭森小学校6年 河野 雅

入 選 秋晴れの運動会でラストラン

城東小学校6年 横山 美羽

入 選 朝ごはんしっかり食べてレッツゴー

平田小学校5年 吉川 莉央

入 選 頂で富士の山から初日の出

稲枝東小学校5年 牧野 輝

入 選 暑いけど全力だして野球する

城北小学校5年 大橋 琉翔

入 選 しょうがないだって食欲止まらない

金城小学校6年 浅野 まり

入 選 あつい秋いつころもがえ考える

平田小学校5年 土川 晴輝

入 選 よぞらにはスーパームーンにつっこ

平田小学校5年 北村 比奈

入 選 ごみがあるびわ湖はいやだゴミひろい

稲枝東小学校6年 赤田 悠真



【中学生】

特 選 二時間目すでに気持ちは五時間目

鳥居本中学校1年 稲出 唯花

(評) 先ずは午前中の授業中に午後の授業を待ち望んでいるのは、給食を楽しみにしている気持ちなのかと想像しました。あるいは早く授業が終わり、クラブ活動ががんばりたいのかなと思いました。「二」と「五」の数字だけでいろんなことを想像させられました。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

特 選 秋の朝光に当たる朝ごはん

西中学校1年 竹内 諒

(評) 朝ごはんの時間はいつも同じ時間ですが、秋になり日の出の時間が夏よりも遅くなります。そのために太陽の光が低い位置から家の奥まで届いたために気がついて詠んだ句です。日常のわずかな変化をとらえておりすばらしい。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 帰り道夕日が自分を照らしてく

西中学校1年 野村 莉那

(評) 秋の日はつるべ落としと言われるように暮れやすい中、家への帰りを詠んでいます。夏ならまだ明るいので寄り道もできる。低い位置から照らされているので景色も見にくいので早く帰ろうとしている気持ちでしょう。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 友達と趣味合わずとも馬は合う

鳥居本中学校3年 押谷 葉花

(評) 趣味が同じであると、その分野で競争となればライバルにもなります。それよりも気持ちが合う友達とはこの先も離れた場合でも長く付き合っていけるでしょう。この出会いを大事にしてください。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

佳 作 自 転 車 を す ず し い 風 が 押 し て く る

西 中 学 校 1 年 本 田 彩 葉

佳 作 秋 に な り こ こ ろ わ く わ く 衣 替 え

鳥 居 本 中 学 校 2 年 小 嶋 歌 歩



入 選 午 後 十 時 今 日 い ち に ち を ふ り か え る

稲 枝 中 学 校 2 年 川 口 睦 世

入 選 手 を 挙 げ て で き た ら い い な 発 表 を

鳥 居 本 中 学 校 3 年 喜 田 偲 温

入 選 帰 り 道 二 人 で 歌 う ハ ー モ ニ ー

西 中 学 校 1 年 大 角 優 衣

【総評】

今年もたくさんのお応募ありがとうございました。

五七五の基本に忠実な句、リズムが心地よくひびく作品を中心にえらびました。みんな素晴らしい作品ばかりなので、選ばれなかったからといってガッカリしないでください。十七音の少ない言葉で自分の気持ちを相手に伝えるのはたいへん難しいと思います。でも、「ことばあそび」「しりとる」などゲームのつづきだと思って気楽に楽しんでください。

題材をさがすきっかけ

- ・自分のこと 好きな色 好きな本 習い事
- ・学校 遊び時間 給食 運動会 そうじ
- ・友達 何をして遊ぶ ゲーム タブレット
- ・家族 両親兄弟姉妹 じいちゃんばあちゃん
- ・自然 季節 花 昆虫 空 雲

まわりを見まわしただけでも、ヒントはたくさんあります。気になったことから川柳にします。五七五の十七音にならべます。見たことを自分のこととして置きかえるとよりカッコヨクなります。習った漢字はできるだけつかう、読み手にとって漢字から受けるインパクトはとてもつよいです。そして声を出して何度も、何度も読み返します。句のリズムがわかってきます。いろんな場面でたくさん作ることができるようになるコツです。

夏休みワークショップの参加まっています。

次回の「ひこね子ども文芸作品」のお応募も楽しみにまっています。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)